

【保育現場から】

病気に対する抵抗力が低い子どもたちを、お預かりする保育園では、新型コロナウイルス感染症対策以前から、日常的に、手洗い、うがい、消毒、換気など徹底して行っております。発達途中にある子どもたちの集団保育の場での現状を、お伝えさせていただきます。

★こどもは、約2mの距離を保てません

大人に比べて、他者との距離感が非常に近いのが子どもの特徴です。複数のこどもが集まれば、あそぶとき、話をするとき、“からだとからだ”を寄せ合います。“ほほとほほ”をくっつけます。抱っこやおんぶをしてもらいたいのがこどもです。抱っこする、おんぶする保育士は、こどもと2mの距離を空けて保育することはできません。保育現場は“ソーシャルディスタンス”はできません。

★3密=密閉・密接・密集を避ける事はできません

感染拡大防止に3密が求められていますが、どんなに換気をして、園庭でも3密は避けられません。保育園内どこにいても3密状態です。こどもはともだちとあそぶことが仕事です。保育はこどもに触れるところから始まります。保育園では、3密を避けることは極めて困難です。

★乳児はいろいろな物を舐め、その手で触ります

乳児は物を舐めて育ちます。「これはなに？」と口で物を確かめます。保育園では玩具や保育室を常に消毒しています。しかし、日常的に舐めることが前提としてあるのが保育現場です。そこからの感染リスクがあることをご承知おきください。

★こどものマスク着用は困難です

感染防止のため、マスク着用が勧められていますが、こどもにはマスク着用が難しいです。乳児は特にマスクを嫌がります。幼児でも顔に何かに触れていることが苦手なお子さんがいます。また、お友だちのマスクに手で触れてしまうお子さんもいます。大人と比べ感染防止のためにマスク着用が馴染まないのが保育現場です。

保育園は こどもたちの笑顔のために がんばって まいります